

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

率先しよう Lead The Way

RI 会長 ウィリアム・ビル・ボイド



2006～2007

残心 に あり

富津中央 RC 会長 永島 強

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2001 第26回例会 2007. 1. 25 晴

点 鐘 : 永島 強 会長

進 行 : 原田雅式 副 SAA

ソング : 手に手つないで

### 会長挨拶

永島 強 会長

皆様今日は、今朝 6:30 庭の気温は 1°C でした。子供の頃つまり 50 数年前は、日陰の田んぼには厚い氷が張って春まで溶けず、竹を二つ割りにしたスケートで近所の子供達と遊んだり、山陰のつららを取ったり、兎に角すごく寒かった記憶があります。

そして今日 1 月 25 日は明治 35 年に旭川気象台で -40°C を記録した「日本最低気温記念日」だそうです。地球温暖化が進んでいる現在、この記念日が変わることはまず無いと思います。

また毎月 25 日は天神の日で今日は「初天神」です。受験生の居る家ではお参りにどうぞ。

### 会長報告

第 24 回富津中央ロータリー旗争奪少年野球大会

日 程 : 平成 19 年 2 月 18 日(日)、25 日(日)

場 所 : 富津市民ふれあい球技場

### 幹事報告

大網庄一郎 幹事

1. 塩山 RC お花見例会参加者名簿を回覧します。出来るだけ多数の参加をお願いします。

2. 茂原 RC より創立 50 周年記念チャリティーゴルフ大会への参加要請が来ております。

期 日 : 平成 19 年 3 月 5 日(月)

場 所 : 真名カントリークラブ

3. RYLA セミナー参加者再募集

期 日 : 平成 19 年 2 月 23~25 日

1 月 20 日現在応募者は予定の 30%

4. 嘉義南 RC より会報及びマザー牧場での懇親会の写真が届いているので回覧します。

### 卓話

R 情報委員会副委員長 高橋裕之

東京 RC 松岡信夫氏ご寄稿の「ポールハリス伝」に基づき、ポールハリスの生涯について話した。

### 今年の抱負

職業奉仕委員長 佐藤信泰



先週、例会を休ませていただき東京で二つの展覧会を観てきました。

職業奉仕とあまり関係ないのですが印象深いものでしたので紹介いたします。

一つは、特別公開横山大観生々流転(重要文化財)で、湿潤な大気から生まれた一滴の水が大海まで注がれ、暗雲立ちこめ

〒293-0042 富津市小久保2868

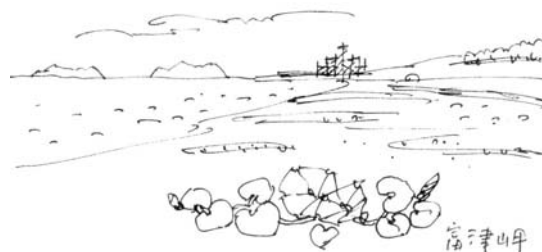
さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



る中を龍となって天に昇ってゆき、再び一滴の雫となって新たな一生を送ると言う40mに及ぶ水墨画で大観の自然観、人生観のうかがえるものでした。

二つめは、人間国宝松田権六の世界で、漆の神様と呼ばれた重要無形文化財蒔絵保持者の足跡で70点に及ぶ回顧展でした。

出身地金沢の加賀蒔絵を形成した室町、桃山、その源流をなした奈良、平安、更に中国や朝鮮の文化財の修復研究などが一堂に展示され、「人に学ぶ、物に学ぶ、自然に学ぶ」を处世訓とした人間国宝の全貌に触れることが出来ました。

特に、松田権六先生は私の芸大時代の師であり仕事に対する厳しさを思い起こされました。

これらの展覧会の会期と場所は下記の通りです。素晴らしい展覧会ですので是非足を運んでいただきたいと思います。

#### 横山大観生々流転

東京国立近代美術館(東西線竹橋)

2007. 1/2～3/4(月曜休館)

#### 松田権六の世界

東京国立近代美術館工芸館(東西線竹橋)

2006. 12/19～2007. 2/25(月曜休館)

#### 新世代育成委員長 高橋裕之

今年の抱負ですが、新世代委員会にとっては、皆さんご承知の通り2月に重点的な活動期があります。一つは RYLAで、もう一つは富津中央RC旗争奪少年野球大会です。ところが暮から年度末がもっとも繁忙期となる仕事の都合もあり、未だRYLA参加の目処が立っておりません。会員数の少ない中、なかなか代わりに参加というのも難しいと思いますが、参加青少年が見つかりましたらよろしくお願い致します。日程は下記に示します。



#### 第30回RYLA

日 時 平成19年2月23日(金)～25日(日)

場 所 千葉県東金青年の家

参加資格 16歳～30歳の男女

#### 第24回富津中央RC旗争奪少年野球大会

大会日程 平成19年2月18日(日)、25日(日)

予備日3月4日(日)

大会会場 富津市民ふれあい球技広場A/B 面

開 会 式 平成19年2月18日(日) 8:30

(雨天は富津小体育館)

参加チーム 富津アストロタイガース・飯野少年野球クラブ・青堀少年野球クラブ・大貫少年野球クラブ・吉野ボーイズ・湊少年野球クラブ・天神山ジュニアフレンズ・峰上少年野球クラブ 計8チーム

主 催 富津市少年野球連盟

協 賛 富津中央ロータリークラブ

後 援 富津市教育委員会

ウスキジャパン有限会社

少年野球大会は、開会式と表彰式もちろん大会も含め多くの会員の参加をお願い致します。

最後になりましたが、私個人の今年の抱負はといいますと、4人の子供の内3人が中学生・高校生に成長し、いわゆる子供騙しが効かなくなりました。少しでも気を抜き適当にあしらうと3人で、ときには今年小学校に入学する一番下の息子まで揃って、猛烈なつつこみを入れてきます。というわけで、今年は子供に対し真摯に向き合い、適当なあしらいをせずに、より一層言葉に責任を持つようにして接していきたいと思います。

#### ニコニコBOX

三平榮男 親睦委員

高島治雄 拙いロシア旅行記掲載に感謝

高橋裕之 おこがましくもポールハリスの卓話

永島 強 佐貫ゴルフ会でオリンピック圧勝

小野恒靖 佐藤、高橋会員の卓話に感激

合計 4,000 円

#### 出席報告

原田雅式 出席委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	20	16	4		80%
前回	20	15	5		75%

ロシアの旅(見て・聞いて・感じた) - その2

高島治雄

Санктペテルブルグを訪れてまず見逃せないのは、世界第3と言われるエルミタージュ美術館であろう。



その保有する美術品3万点以上、これでもドイツ軍に持ち去られた美術品多数、そして戦火に葬られたものも多く、更には革命後の財政的補填のため海外に売却されたとのこと。又市民による盗難、略奪等々の数々の被害を被っての現在の保有数に驚く。エルミタージュは隠れ家を意味するとか、ドイツから嫁入りし数奇な運命をたどった女帝エカテリーナがピョートル大帝によって立てられたこの冬の宮殿を隠れ家として過ごし、その中に自分の趣味と美意識で集めた私有の250点からなる絵画、美術品がエルミタージュ美術館の始まりである。それが年を追うごとに拡充されて来た訳だがまさにロシア王朝の財力のすごさと文化、芸術に関する意識の高さになるのみである。

古代ギリシャ・ローマ時代の彫刻やフレスコ画や近代のマチス・モネ・ゴッホ等絵画の数々の傑作の展示は圧巻である。日本の美術館にこの中の1つが展示されただけでも有名になってしまうのに何とゴーギャン、マチス、ルノアール、ゴッホ、モネ、ピカソなどなどの作品がそれぞれ1室ごとに展示されているのだ！モネの10数点に及ぶ作品の中に自分の身を置いた時には言い知れぬ興奮と感動を感じたことを今でも忘れられない。

このようにすばらしい芸術品に包まれたエルミタージュ美術館は又その建物も美しい。ロシアバロック建築の傑作と言われ Санктペテルブルグのシン

ボルでもある。パリのルーブル美術館を訪れたこともあるが、内容的にも雰囲気も、訪れる人々もそしてその建物も親しみやすく私には和ませてくれた忘れがたい美術館であった。その反面西欧の文化にあこがれイタリアのバロック建築を取り入れ、このエルミタージュ美術館の中にさえバチカンの廊下を模したそっくりそのままの廊下があるなど、いかにロシア王朝が西欧の文化にあこがれ、まねをしながら近代化を図っていったかロシアの後進性も垣間見たような気もする。

次に紹介したいのは1724年に女帝エカテリーナ



のために建築されたエカテリーナ宮殿である。白のバロック様式に高貴の色ブルーを彩り、青空を背に立つ宮殿の佇まいは実に美しい。この宮殿を有名にしているのは壁、天井、装飾品に至るまですべて琥珀で出来ている「琥珀の間」である。もう1つは井上靖の小説「おろしや国酔夢譚」で知られる航海中に漂流しロシアに漂着して多くの苦難を乗り越え、ロシア語を1つ1つ覚えながらついにこの宮殿の大広間でエカテリーナ女帝に拝謁する機会を得、そこで帰国できるよう懇願した大黒屋光太夫の舞台となった場所がある。



もう一つロシア王朝にかかわるピョートル大帝の夏の宮殿がある。ヴェルサイユ宮殿をしのぐとも称さ

れる宮殿だ。ピョートル大帝は噴水に強い関心と執着を持っていたようで、ここで有名なのが夏に美しい宮殿を象徴する噴水の庭園である。庭の至る所にそれぞれ異なる数多くの噴水が形どられ、遊び心もあって美しく楽しい。そう言えばサンクトペテルブルグ市内にも噴水が多く、その代表はエルミタージュ美術館の前に流れるネバ川の中央に、12時になると要塞から空砲が響き渡ると一斉に噴水がわき出る光景は見事である。

まだまだ紹介したいことの筆はつきないが、人口470万(推定)のこのサンクトペテルブルグは高層ビルがほとんど無く、7階建位がビルの上限であり、いたる所にバロック様式の面影を残し、街のどこを切り取っても中世の臭いを感じず。工事現場をよく見かけたがその大部分が修復工事であった。市民が自分たちの住むこの街に愛着を持ち誇りを持っていることを強く感じる。しかし1つの驚きはこの街の車の渋滞ぶりである。観光予定はあくまで予定であり、15分で行ける所へ1時間30分位かかることもしばしばである。まさに街の中は世界の中古車の市場と化している。イタリア製、フランス製、ドイツ製、日本製ありで、私達の乗った観光バスは中国製であった。色々な国々の都市を訪れた私もこの殺人的渋滞はタイのバンコックもしのぐものであった。



終わりに夜は是非オペラかバレエ鑑賞をおすすめしたい。立派な劇場ではないがチャイコフスキーの「白鳥に湖」はまた格別であった。

#### ☆モスクワのアラカルト

モスクワの名が歴史上登場するのは1150年頃と言われるが、14世紀初頭から首都として栄え、今日に至るまでの歴史はまさにロシアの歴史を物語る。成田APから約10時間。」人口900万だそうだがペ

レストロイカ後地方の産業は衰退し、生活が苦しくなるにつれて地方の人々がモスクワに流入し始め、今では推定1500万人になるのではと耳にした。(かつてソ連邦の時代では自由にモスクワには出入りできなかったそうだが今は自由とのこと)

南北40Km 東西35Kmの市街を持つこのモスクワはヨーロッパ圏にあって屈指の大都市である。

そのモスクワの中心と言えばクレムリンである。当初は土塁で築かれていたものが国の成長と共に拡張・再編成されイタリアの建築家や技師によってクレムリンは建造され18の監視塔に囲まれ、厚さ6mに及ぶ煉瓦の壁は延べ2,200m余に及ぶ。中世ヨーロッパにおける模範的要塞と言われ今は世界遺産の1つとなっている。



クレムリンの前に位置するのが赤い広場である。その南側に位置するロシア正教の聖ワシリー聖堂。どこかアラビアンナイトの世界のような多種の鮮やかな色彩にめぐらされ、ローソクをイメージするいくつもの丸い塔を持つこの聖堂は赤い広場の入り口のシンボルと言える。この聖堂の左側がクレムリンの赤煉瓦の壁。その奥がこれまた濃い煉瓦造りの国立歴史博物館。そして右手には12世紀から開業している白色のグム百貨店。これらが650mの長さを持つ赤い広場を囲んでいる。メーデーとか革命記念日に埋め尽くすパレードの様子を映像としてよく目にしていた所である。

ずっと前から生涯を通して訪れることが可能な所ではないなと思っていたのだが、現実実際にこの赤い広場にたたずんだ時、言いしれぬ感慨を覚えた。ヨーロッパを訪れたそれぞれの国の首都にはないカルチャーショックである。

[続く]